

## 「利根川水系小貝川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

日 時：令和元年 12 月 1 日（日）10:40～11:00

場 所：国道交通省関東地方整備局下館河川事務所

発言者：公述人 3

まず、体験談からお話ししたいと思います。

私は、つくば市、旧豊里の上郷の■■■■と申します。

私は、昭和 59 年、豊里消防団に入団しまして、まだ右も左もわからず、火災現場に先輩団員の指示のまま動きました。すると、61 年に大変なことが起きました。小貝川の氾濫です。初めての経験で、我々団員に連絡が入り、小貝川の長峰橋に急行すると、先輩団員が氾濫水位に達したと叫んでいました。何のことがさっぱりわからず、私も橋の上に立ったところ、濁った水が橋のすぐ下まで来ていました。初めて見た光景でした。私の体など一瞬で飲み込んでしまうような濁流でした。また、土手の周りほとんど田んぼであり、あと 2 週間ぐらいで稲刈りのシーズンだったんです。その田んぼが、ぼこぼこっと盛り上がっていました。この現象は何ですかと先輩団員に尋ねると、モグラの掘った穴から川の水が回って、田んぼの表面を水圧で押し上げているのかなと答えてくれました。また、それと同時に、土手の石塊箇所土のうを積み上げていました。

すると、隣町、石下町の消防団員がやってきて、豊里の団員数名、手伝ってくださいと青ざめた表情で声をかけてきました。我々若い体力のある団員数名が手伝いに橋を渡り、反対側の土手の亀裂の入った水門に近づきました。その水門を見た途端、足がすくみました。濁流が勢いよく流れていました。土のうを投げ込んでも、もう手がつけれない状態でした。その後、責任者らしい団員が大声で「みんな避難しろ」と命令を下しました。すると、土手がもう見る見ると崩れ落ち、あふれんばかりの濁流が住宅や田んぼのあるまちのほうに流れ込んでいく光景を見て……、恐ろしかったことはありませんでした。今でも目に焼きついています。

それ以降、土手にコンクリートブロックやシートパイルを整備したおかげで、小貝川の周りは守られてきました。上郷地区の下流には金村別雷神社というものがあります。昭和 60 年ころに築堤工事をしたおかげで、翌年の洪水からは守られました。1 年遅かったら大きな被害となっていたと思います。

最近では、平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨で鬼怒川が決壊し、再び対岸の常総市が被害に遭いました。ことしの 10 月には台風 19 号が襲いかかり、上郷地区の小貝川も氾濫水位の 50cm 手前まで水位が上がりました。だが、これまで河川整備が進み、氾濫はありませんでした。

私は現在も消防団員として、洪水のたびに小貝川の土手の見回りなど水防活動をしています。そのたびに思うのは、土手の道路幅、車 1 台通るのがやっとというくらいに狭く、大きな樹木もたくさん茂っており、30 年前の洪水が再び来たときは、いつかあふれてしまうのではないかと心配しております。土のう積みなど水防活動もできないのではないかと思います。

私のこれまでの経験を若い世代に伝えて、安心して小貝川のそばにこれまでどおり暮らせるように、計画的な河川整備と、マイ・タイムラインのような住民に対するソフト対策の充実を盛り込んだ計画にしていきたいと考えております。

また、私の個人的な意見ですが、先ほども、ここに書いてありますように、土手の道路幅が車 1 台分通

れるくらいということで、土手の通行が多くなっていますので、もう少し幅の広い道路幅にしていきたいということを計画的に考えていただきたいと思います。

以上です。ご清聴ありがとうございました。